きらり

平成24年6月 第17号

島根の『環境農業』情報誌

『環境農業』に関する県の考え方や事業の進行状況をリアルタイムでお伝えし、皆さまとネットワークを結ぶことを目標としています。

CONTENTS

PAGE 1 **生物多様性を育む米づくりの取組**
～除草剤不使用栽培から有機栽培へ～

PAGE 2 **宣言者のページ**
○齋藤吉代司 氏（益田市）
○須田商店　森 則子 氏（松江市）

PAGE 3 **取り組み紹介**
○吉賀町　○NPO 法人島根有機農業協会

PAGE 4 **しまね有機の郷**
「島根県有機農産物・加工品等カタログ」を作成しました
補助事業情報
～みんなでつくる有機の郷事業～

PAGE 5 シリーズ第 13 弾 **『環境農業』研究トピック**
しまね有機の郷フェア in にほんばし島根館の開催

PAGE 6 **イベント掲示板**

生物多様性を育む米づくりの取組み

～除草剤不使用栽培から有機栽培へ～

島根県では、平成19年度から「除草剤を使わない米づくり」等の「環境を守る米づくり」を推進してきました。今年度からは、その取組みを一歩ステップアップさせて、化学的に合成された肥料や農薬を使用しない、「生物多様性を育む米づくり」と題した有機栽培による米づくりを実証していきます。県内6カ所で生産者の方の協力を得て実証ほを設け、研修会等を実施しながら、水稲の有機栽培技術の確立と普及を目指します。

これまで、県農業技術センターでは、水田除草機による除草を基幹技術として、2回代かきや深水管理など、いくつかの技術を組み合わせた除草技術の開発に取り組んできました。その結果、全てではありませんが、多くの雑草の発生を抑えることができるようになり、有効な技術として普及を図っています。今年度は、これらの基幹技術に加え、育苗や田植え方法を検討する必要がありますが、成苗（約 4.5 葉）育苗などを実証項目に加えて、より効果的に雑草を抑える技術体系を検討する計画としています。

一方、環境にやさしい米づくりを実践している田んぼでは、カエルやクモに代表される多種多様な生きものが見られ、メダカやタガメといった今では絶滅危惧種と呼ばれる貴重な生きものも見ることができます。今年度は、こうした生きものの種類や数を調査し、田んぼの生物多様性を数値化して、環境にやさしい農業への取組みの度合いを客観的に評価する手法も活用していくことにしています。

県では、これらの活動が面的な取組みとして広がるよう、環境にやさしい農業のトップランナーをめざし、今後も技術の開発と普及に努めていきます。

平成23年度に設立した「島根県水稲有機栽培技術推進ネットワーク」でも、引き続きセミナー等を開催し、実践者の技術研鑽や情報交換を行い、有機栽培の拡大を図ります。是非、一緒に有機栽培について取り組みたい方、有機栽培に関心のある方の加入をお願いします。

問い合わせ先；農畜産振興課有機農業グループ 鳥谷
TEL 0852-22-5109

冬水田んぼには渡り鳥の白鳥が餌を求めて舞い降ります

除草機による水田除草の様子

有機栽培による米づくりへの挑戦

益田市　齋藤 吉代司

私は、平成23年1月に松江市のくにびきメッセで開催された「環境農業シンポジウム」に参加して、新潟県佐渡市で取り組まれている生物多様性を育み、環境を守るトキ米生産の発表を聞き、有機農業に強く関心を持つようになりました。

そして、定年を機に昨年から水稲の有機栽培に取り組み、妻と二人で有機農業の勉強会や研修会等があれば必ず出席することにしています。平成23年度には、県の補助事業「みんなでつくる有機の郷事業」を活用し、有機栽培に取り組むための機械等を整備しました。

抑草を目的とした米ぬか散布

今年は、冬水田んぼから始め、水田の半分程度を有機栽培にする計画です。私の集落は限界集落といっても良い程、高齢者の多い集落ですが、平成7年に65才前後の仲間（5～6人）で立ち上げた法人があります。有機栽培は、今年から私が本格的に始めますが、年々、一人ずつでも有機農業について理解してもらい、下波田地区をそして真砂地区を早く有機の里真砂としていきたいと思っています。

冬水田んぼの様子

今年は水田228.4aのうち127.3a（水稲:111.9a、大豆：15.4a）で有機栽培に取り組む予定です。

アイガモ農法から学ぶ生命のおはなし

松江市　須田商店　森 則子

高齢化した住宅地で、地元の有機農産物や手作り品等を販売しています。お茶を飲みながら話が出来る地域のホットステーションでもあります。お店をやりながら、「環境にやさしい農業」を身近に感じてもらいたいと農業者と生活者を繋ぐ活動も行っています。

今年の1月には、合鴨農法による米作りに取り組んでいらっしゃる福間農園さん（松江市八雲町）でお話を伺いました。合鴨をひなから育てると同時に、稲も育てるという大変手間のかかる農法です。写真を交えたお話しは、田んぼでの生命の循環の様子が手に取るようにわかりました。お話しの後は、合鴨料理をいただきました。「かわいそう…と思ったが、生命の素晴らしさや大切さ、感謝する気持ちが自然とわいてきた」という感想をいただきました。

福間さんとの、「モノの本質をちゃんと見て知ること。それが選択する力をつける」という話の中から生まれたこの企画、実践されている方からお聞きする言葉が一番心に残ります。

今年も楽しい活動を計画中です！お楽しみに！

問い合わせ先

須田商店（森）
松江市八雲台1丁目11-31
TEL/FAX：0852-67-1510

研修会の様子

地域の取組紹介

有機農業を広げたい

～吉賀町の取組み～

吉賀町では合併後のまちづくりとして有機農業を町内全域に広げるために講演会や研修会などを開催して意識啓発を図っています。

一方で数年前から老若男女問わず自給的な生活を目指す考えを持った方が吉賀町を訪れ、移住される方も多くなってきました。

そこで、町では有機農業者の育成を狙いとして、町内の農業者や農業研修生を対象に平成22年度から有機農業塾を開校しています。

１年目はテーマごとに講師を変える方式で座学を中心に実施し、後半に実技として堆肥づくりを行い、翌春の各自の営農に活用しました。

２年目はＭＯＡ自然農法文化事業団に年間講師を依頼し、受講生の圃場の一部を実習圃場として利用し、座学や実技の実施及び県外視察を含め10回の塾を開催しました。

そして、3年目となる今年度は、「みんなでつくる有機の郷事業」を活用し、農法の違いが品質に及ぼす影響の調査や、営農シートの作成等を主内容とし、全12回の予定で開催しています。

塾生は各年度とも26～28名程度で、1／3程度は常連の方々です。2／3程度は新規の方が受講しています。

今後、受講を終えた方々が地域に溶け込み、自身の目標を達成するため有機農業を実践されることを期待しています。

有機JAS 認証など有機農業の取組を推進

有機農業の広がりを願って

ＮＰＯ法人島根有機農業協会

当協会は県内唯一の有機JAS認証を行う登録認定機関として、これまで県内外の生産者及び加工事業者の方々の申請を受け、認定を行ってきました。併せて、有機農業を広く知ってもらうための活動や有機栽培の技術の波及も進めてきました。昨年度には有機農業の相談事業や会報誌「すまいる」の発行を始めました。

会報誌「すまいる」

有機農業とは、「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本とするもの」（有機農業推進法）と言われていますが、この他に、私たち人間以外の草花や小動物など沢山の生き物たちと共存共栄しながら営むものでもあると思っています。

有機農業の制度に限らず、有機農業そのものに興味や関心のある方は当協会まで、ご一報くださると喜びます。皆さんと一緒に有機農業をとおして、地域の未来のためにできることを行っていきたいと思います。

今年度も有機農業の普及活動の一環として、講座や研修会などを計画していますので是非ご参加ください。※内容については、協会ホームページ等に随時、掲載していきます。

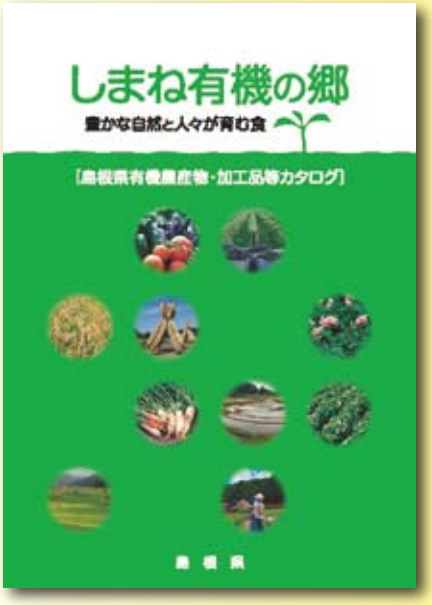
連絡先

〒699-4621 島根県邑智郡美郷町粕淵 166-1

TEL/FAX：0855-75-0017　IP 電話：050-3761-0069

mail：shimane-yuki-nougyou@feel.ocn.ne.jp

島根県有機農産物等カタログ「しまね有機の郷 ～豊かな自然と人々が育む食～」を作成しました



島根県では、「しまね有機の郷」を推進する目的で、県産有機農産物（有機JAS認証）及び県エコロジー農産物等のPRカタログ「しまね有機の郷ー豊かな自然と人々が育む食ー」を作成しました。

今後、県産有機農産物等をより多くの方に知っていただき販売・消費の拡大が図られるよう、商談会や実需者、消費者等へのPRに活用します。

なお、今年度も引き続き本カタログの更新・発行を行い、県内外に向けてより広く周知していく予定です。

補助事業情報

みんなでつくる有機の郷事業

平成23年度から有機農業へのチャレンジや本格展開を促進するため、地域や関係者の創意工夫をこらした取組みに対して支援を行っていますが、平成24年度も継続して実施します。

	有機農業チャレンジ事業	有機農業実践支援事業
目的	① 県内産有機農産物の販路開拓及び販路拡大 ② 県内における有機農業の新規就農者の受入れ・育成 ③ 県内における有機農業の面的拡大	①～③のいずれかを目的とする事業
概要	新規参入や有機農業への転換等の試行を支援	本格展開・規模拡大の支援
	事業期間は、２カ年を限度とし、事業実施後には、技術的な実証や事前調査を終了し、本格的な実践へと移行する計画とする。	事業実施終了後５年目までに、有機農業による経営の安定化（収量確保・品質安定、販売先の確保）が見込まれる事業計画とする。
事業費上限	１事業あたり　2,000 千円	１事業あたり　おおむね 20,000 千円
補助率	○機械購入等支援（ハード：1/3 補助）　○販路拡大や消費者交流支援（ソフト：1/2 補助）	
採択方法	書類審査	外部審査員による審査会方式

平成 23 年度の取組を下記に一部紹介します。

	事業主体種別	事業概要
1	団体	野菜の生産拡大のための施設（ハウス）及び露地の根菜類栽培に利用する機械の導入、販路開拓活動、研修会活動
2	団体	有機JAS認証研修の実施、除草機の導入、落葉収集機導入
3	個人	不耕起田植機の導入、消費者へのPR資材作成

【申請受付期間】　7月10日～8月10日　（変更をする場合があります。）

【問い合わせ先】
○農畜産振興課有機農業グループ（鳥谷）　TEL 0852-22-6477
○東部農林振興センター農業振興グループ　TEL 0852-32-5646
○西部農林振興センター農業振興グループ　TEL 0855-29-5593
○隠岐支庁農林局農業振興グループ　TEL 08512-2-9638

シリーズ 第13弾 『環境農業』研究トピック

県農業技術センター発

環境保全型から有機農業研究へ!

農業技術センターでは、これまで蓄積してきた環境保全型技術をステップアップし、今年度から本格的に有機農業研究を開始します。研究は次の点を重視し、水稲と野菜を中心とした有機栽培技術の開発に取り組みます。

【現場の実態を踏まえた研究】…「課題は常に現場にある」を念頭に、有機農家の実態調査から始め、現場の課題を踏まえた研究を行います。

【業として成り立つ総合技術を提案】…有機農業も確かな販路や相応の価格が見込めなければ成立しません。研究では、栽培技術だけではなく経営やマーケティングを含めた総合技術を組み立てます。

【本県の独自性を加えた有機技術】…化学合成された肥料や農薬を用いないーいわゆる有機 JAS 基準を基本に、輪作作物や栽培法に特徴のある本県独自の有機栽培技術を開発します。

【研究成果の速やかな普及】…研究成果は、県の施策や農業普及部門を通じて速やかに普及に移します。水稲や野菜の研究ほ場は一般公開し、研究の進捗状況を実際にご覧いただきます。

次号から、順次、有機農業研究のトピックを紹介していきます。また、実際に有機農業に取り組んでいらっしゃる皆様のアドバイスをお待ちしています。

担当　農業技術センター企画調整スタッフ
TEL 0853-22-6698
E-mail : nougi@pref.shimane.lg.jp

冬季湛水水田において雑草の抑制効果が期待されるトロトロ層を調査する研究員

トロトロ層の形成を担うとされるイトミミズ

「しまね有機の郷フェア」in にほんばし島根館を開催しました

平成24年3月16日～18日に、島根県のアンテナショップ「にほんばし島根館」（東京都中央区日本橋室町）において、県産有機農産物のPRフェアを初めて開催しました。

「しまね有機の郷」の取組をPRするとともに、「しまね農業」のブランドイメージの浸透を図り、首都圏での消費拡大につなげることを目的に、県内から6事業者の協力を得て、生鮮野菜や農産加工品のPR、販売を行いました。

このフェアを通じて、首都圏には、確実に島根県産農産物や加工品を求めるリピーター及び需要があることが分かり、今後も商談会の開催などを実施し、「しまね農業」をアピールしていきます。

長江米エコ栽培グループ

開催場所は、西長江町公民館（松江市西長江町）付近の公開田んぼとなりますが、各回毎に若干異なりますので申込時にお問い合わせください。

▼**申込・問い合わせ**（次のいずれかへ…）
加　藤：0852-36-7335（TEL）
大井川：0852-36-8170（TEL･FAX共）
村　松：0852-36-7768（TEL･FAX共）

さぁ収穫です!!
はで干しをしたお米は、
10月21日の収穫祭で
味わいます。

ほたる観賞会

●**日　時**／６月 16日（土）
18：30 ～

●**参加費**／大人1,000 円、小人無料
（ほたる観賞会前には、よしもとすみます芸人 桂三段さんの寄席があり、手料理も楽しめます。）

田んぼの生きもの調査･草取り

●**日　時**／６月 24日（日）
9：00～13：00
（終了時間は予定）

●**参加費**／大人500円、小人無料
（昼食で手料理が楽しめます。）

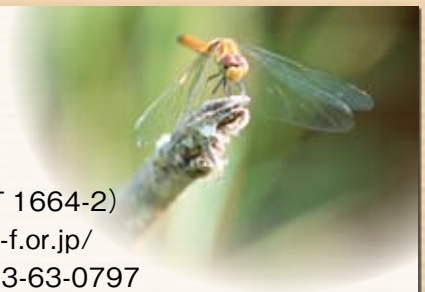
稲刈り

●**日　時**／９月９日（日）
稲刈り9：00～13：00
（終了時間は予定）

●**参加費**／大人500円、小人無料
（稲刈りのみの参加の方は無料。昼食ではそうめん流しが楽しめます。）

宍道湖グリーンパーク

年間を通じた様々な自然観察会を開催しています。申込は、各回とも開催日２週間前からとなります。
※参加費:100円（保険料）、定員:20名（各回とも同じ、小学生以下は保護者同伴です。）



▼**申込・問い合わせ**
宍道湖グリーンパーク（出雲市園町 1664-2）
ホームページ　http://www.green-f.or.jp/
TEL 0853-63-0787　FAX 0853-63-0797
火曜休園（祝日の場合は翌平日）

観察会 トンボをみつけて観察しよう

●**日時**／７月８日（日）
10：00～12：00

●**内容**／いろんなトンボを探してみよう。もしかしたらナゴヤサナエの羽化も観察できるかも。

観察会 田んぼの植物標本づくり

●**日時**／８月 12日（日）
10：00～12：00

●**内容**／身近の草花たちを調べてみましょう。夏休みの自由研究にもオススメ♪。

観察会 宍道湖岸のあそび方入門

●**日時**／９月９日（日）
10：00～12：00

●**内容**／宍道湖岸の生きものたちを観察しながら、あそびや工作も楽しみましょう。

第２回 しまねオーガニックフェア

昨年に引き続き、今年も開催します。詳細は次号にてお伝えします。
と　き：平成24年12月22日（土）
ところ：くにびきメッセ大展示場（松江市学園南1丁目2番1号）
※出展及び農作物の作付けなどを今からご検討ください。

宣言の状況

（平成24年4月末日現在）

3,396件

消費者の方…　2,727件
農業者の方……　549件
企業･学校等　…　120件

編集後記

本誌は今年節目の5年目を迎えました。
宣言者数も 3,000 名を超え、環境保全型農業への意識は徐々に浸透していると思います。今後も生産者と生産者、生産者と消費者のつながりが一層深まっていくような活動を展開していきます。
本誌もその一助を担うよう努めていきたいと思います。

○この情報誌は、「環境を守る農業宣言」をした生産者や消費者の方々及び関係機関に配布しています。
○ご意見、掲載希望、また配布停止を希望される方は、下記までご連絡ください。

発行・編集
島根県農林水産部農畜産振興課
（平成24年６月１日発行）
〒690-8501 松江市殿町１番地
TEL 0852-22-6477　FAX 0852-22-6036
ＵＲＬ　http://www.pref.shimane.lg.jp/nochikusan/